

令和8年度 事業計画

【総論】

戦後、“老後の幸せは自らの手で開こう”とする先覚者たちが中心となり全国各地で老人クラブが結成され、現在では全国老人クラブ連合会を中心とする全国的なネットワークを有する高齢者組織にまで発展し、スポーツ・文化活動、学習会や地域のボランティア、世代を超えた交流活動、美化活動など様々な取り組みを行っています。

堺市老人クラブ連合会（堺市老連）も昭和37年に創設されてから今日まで、様々な活動を通して老人クラブの育成や連絡調整、老人クラブの発展と高齢者福祉の向上に寄与してきました。

しかし近年、高齢者の就業率の増加、趣味や考え方の多様化、地域とのかかわり方の変化などにより会員数は全国的にも減少の一途をたどっています。さらに会員の高齢化も進み、役員の後継者不足のみならず日ごろの活動にも影響が出始め、活動の停滞・停止や老人クラブの解散という結末を迎えたところも散見されるようになってきました。

このような事態を受けて課題解決に向けて行った実態調査を参考にして、解散クラブに所属していた会員を救済するために南区老連では区直轄の単位クラブを立ち上げるなど独自の対応を考え試行しているところです。

今後、市老連でも柔軟な老人クラブ連合会の運営方法を検討、推進することで市老連全体の活性化を図ってまいります。

財政面に目を向けますと、会員数の減少や平成31年度に校区老連の市老連会費を廃止したことなどによる会費収入の減少や、諸物価高騰のあおりを受け事業費支出が増加するなど厳しい経営状態が続いています。長期的な視点に基づいてさらに効率的、効果的な事業運営に努めるとともに、一部の事業における受益者負担についても継続してまいります。

今後も、より魅力ある活動を行うことで会員の皆様の満足度を上げるとともに、「仲間づくり」、「健康づくり」、「生きがいくくり」、「地域づくり」に取り組んでまいります。

【重点事項】

- 1 魅力ある市老連事業に向けた取り組み
 - より多くの会員が参加できるように既存事業の実施方法を見直します。

- 2 市老連の活性化に向けた取り組み
 - 柔軟な組織運営に向けて関係各所と連携、協議を行います。

- 3 区老連、校区老連活動の活性化に向けた支援
 - 区域活動助成金、校区活動助成金を継続するとともに次年度以降のより効率的な支援方法を検討します。

- 4 財源確保に向けた取り組み
 - 効率性・効果性を考慮した支出と一部の事業における受益者負担を継続します。